

中退者5人に1人「経済的に苦しくて」

大学・短大703校 14年度調査

大学や短大を2014年度に中退した学生のうち、経済的な理由によるのは5人に1人。そんな実態が東京大の小林雅之教授らの調査で明らかになつた。「奨学金制度などをもっと充実させる必要がある」と小林教授はみる。

結果によると中退者（除籍者を含む）は5万2533人で全体の2・6%。うち経済的な理由で中退したと大学や短大がみているのは21・2%を占めた。小林教授らは独自にこの2年、99・5歳の大学の中退経験

• 3%）。中退の経済的な要因に注目して分析した。

調査は文部科学省から委託され、全国の大学と短大計114校を対象にして実施した。回答したのは703校(回収率61%)で、中退した理由として「経済的」が722人を占め、インターネットで調べた。

月 1,444歳の女性の口に絶縁者722人をインターネットで調べた。

名古屋大学では4月に奨学金説明会が開かれた。担当者は「卒業後の返済のことよく考えて」と呼びかけた=細川卓撮影

奨学金制度「もっと充実を」

「授業料免除や返済しなければならない奨学金では限界がある。授業料減免や給付型奨学金など返さなくていい支援策の充実が求められる」と話している。

(編集委員・氏岡真弓)

奨学金を受けていたのは全体の23・9%。そのうち42・9%が奨学金を学費に、25・0%が生活費にあてていた。

に苦しかった」と回答したのは
217人で全体の30・1%。そ
のうち「勉強に興味・関心を持
ち」、「大学の成績が中以上」と
回答した人は26・3%と4人に
1人以上いた。

奨学金返済 非正規の半数超「苦しい」 34歳以下2千人調査

（二十一）非正規労働者（218人）では、返済の負担感は56・0%。延滞の経験も非正規は24・3%だった。生活設計への影響は「持ち家取得」「子育て」など多くで3割を超えた。協議会の花井圭子事務局長は「高等教育に予算を配分する必要がある」と話している。

2%)から回答を得た。
奨学金を受けた34歳以下の2061人を詳しく分析したところ、借入総額は平均で31.2万円。返済が「続いている」が8割で、返済月額は平均約1・7万円だった。

奨学金を受けた34歳以下のうち、非正規労働者の5割超が返済を苦しいと感じている――。労働者福祉中央協議会の調査で、そんな実態が浮き彫りになった。

労働組合員や福祉事業団体職員らに昨年7～8月、アンケート形式で実施。1万3342人(回収率74・